



学校だより

北海道中札内高等養護学校幕別分校
令和5年3月24日(金)
第 6 号
〒089-0615 中川郡幕別町南町 81 番地 1
電話 0155-55-2121
FAX 0155-55-2122



あたりまえを感謝できる自分で

校長 太田 千佳子

早いもので3月。3月当初、学校のTwitterに「雪解けて車が立ち往生」と紹介されていたのを見て、「いよいよ春がきた」という思いになりました。

そして、3月になると、東日本大震災で被害に遭われた方のことを思い、今年は「あれから12年」と、当時北海道にいても家族や友人と連絡がとれない不安、報道される被害の様子に恐怖を覚えたことを思い出しています。この3月は、命の大切さ、家族や友達の大切さを再認識する季節です。

私には姉がいました。ケンカが多く大人になって離れて暮らしてから連絡をとり合うことはありませんでした。若くして病気で亡くなったとき、最後に会ったときに感情的な言葉を姉にぶつけたことを後悔し、苦しかった時期を過ごしました。そんな経験もあり、朝出掛けるときの「行ってきます」、地元に戻った時の「いつもありがとう」などの言葉を家族に掛けるようにしています。3月は、そこにある日常の当たり前に感謝すること、そんなことを思う季節です。

今年卒業した3年生は、入学してすぐに臨時休業となりました。本来であれば、学校の流れを知り、初めての学校生活で友達関係を築きながら過ごす4月でしたが、思うようにできない毎日が続きました。不安や苛立ちをもつこともあったと思います。改めて「あたりまえ」の日常は、決して当たり前ではない、と思わされることがたくさんありました。

学校のYouTubeで紹介されている「学校紹介」で、生徒たちが、「幕別分校のよいところ」を紹介しています。「挨拶、元気」「めっちゃ楽しい」「学習が楽しい」「広い校舎」など、学校の日常について、よいところとして生徒が紹介しています。この動画を見ながら、生徒たちが日常にある「あたりまえ」の価値を理解し、大切にしていると思え、心からうれしくなります。

毎日の日常を大切に元気に過ごしてくれた3年生に感謝しながら、これから学校を守っていく在校生にも、「あたりまえ」を大切に過ごしていこうね、と願っています。



卒業式

晴天に恵まれた3月11日、北海道中札内高等養護学校幕別分校第8回卒業証書授与式が挙行されました。今年度は在校生や来賓の方々に加え、保護者の皆様に見守られながら、厳かな雰囲気の中、卒業式が行われました。

卒業式では、校長式辞、PTA会長や幕別町教育委員会教育長様からの御祝辞、在校生代表からの送辞など、多くの方からの労いや激励等、あたたかいお言葉をいただきました。卒業生達も幕別分校での学びを思い出すとともに、新たなスタートへの決意を固めることができましたと思います。

これまで幕別分校第8回生へのご指導を頂いた、地域の皆様をはじめ、ご支援を頂いた保護者の皆様、誠にありがとうございました。今後ともご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

卒業式担当：山下



卒業にあたって



「3年1組のみんな、卒業おめでとう」

3年1組の話し合いでは、意見が出て盛り上がり、たまに脱線しつつ、活発な意見交換が行われます。ブレインストーミングが成功している良い状況です。そして、授業が終わるころには結論を出せる。というのが、理想な話し合い学習ですが、3年1組はその結論が出せない学級でした。

個々を大切に多様性を尊重する、Z世代を象徴しているかのような生徒たちだったのですが、学校祭をきっかけに変化が。ステージ発表の練習をしながら、「〇〇も良いと思うんだけど、△△のほうが良いんじゃないかな。」いつもより、ちょっと強めの意見。ここをきっかけに「いや、〇〇が良いと思う。」「△△のほうが、ウケると思うよ。」という、これまでとは明らかに違う流れ。新たな一歩を踏み出した瞬間でした。

仲間の意見を肯定しつつ、ベストな方向性を考えて意見を出し、結論に導くことができる。大人へと成長している一面を垣間見ることができました。担任として、彼ら彼女らと素敵な時間を過ごせたことに感謝しています。3年1組のみんな、卒業おめでとう。

3年1組担任：小林

「何事にも挑戦して」

今年卒業を迎えた3年生は、保護者・来賓のいない入学式。そして1週間も経たないで、約2か月の間臨時休業となり学校生活がスタートしました。入学式後の記念写真でマスクを外し生徒の素顔が見ることができましたが、今と比べると本当に幼い緊張した表情で写っています。それから3年、卒業生は行事も延期や中止など制限されましたが、学校祭や実習など日頃の成果を発揮しようと全力で取り組み結果を出し、生徒それぞれが、心も体も大きく成長しました。

3年生は、18歳初代の成人であり、4月からは社会人となります。これからも夢と希望をもち続け、生涯学習というように(いつでも、どこでも、だれとでも、なんでもできるように)豊かな人生を送るために成長し活躍されることを期待しています。

人生100年と言われ、幕別分校での学校生活はわずか3年ですが、学んだことを実践できることが大切です。チャンスを掴み何事にも挑戦して欲しいです。

3年2組担任：千葉

1年を振り返って

幕別分校に入学して、2年間が経ちました。この2年間の間にはいろいろな学習や活動、行事などがあり、初めてのことにたくさん経験した2年間だったと思います。

学校生活にも慣れてきて、見通しのもてる活動や行事には、自分たちから考えたり動いたりすることができるようになってきました。“学校祭”“見学旅行”“3年生を送る会”など、1つ1つの行事を学年みんなで話し合って考え、そして決めて、取り組んでいたと思います。生徒同士お互いの性格・タイプを自分たちなりに少しずつ理解してきて、考えながら周りの人と関わっている様子も見られました。この2年間の、生徒たちの心の成長をとっても感じています。

4月からは3年生になり、1年後は卒業です。学校の中では、先輩はいなくなり、最上級となります。いよいよ、自分の卒業後の進路に向かって、現実的・具体的に動き出すときがやってきました。

17～18歳で社会生活について考えることは難しいことではありますが、生徒たちが自分で、自分の卒業後の進路を考えて選択し、決める・決断することができれば…と思っています。



2年1組担任:石 田

2年生は「春の現場実習→学校祭→秋の現場実習→見学旅行」のように、やるべきことが盛りだくさん！まさに飛ぶように毎日が過ぎていきました。実習については、生活面と仕事面それぞれの目標を意識して、懸命に取り組む姿が印象的でした。将来に向けて、日中活動の場(職種など)や生活の場について、よく考え、とても悩む1年間だったと思います。見学旅行については、コロナ禍で心配されましたが、京都・大阪に行くことができました。飛行機に乗り遠方まで行けたことは、一生の思い出になったのではないのでしょうか。

いよいよ3年生になります。決断した進路の実現に向けて、「やってやる！」という強い気持ちを持って、何事も挑戦して行ってほしいと思います。



2年2組担任:高 橋

入学式当日、新入生が登校するまで自分が落ち着かなかったため、教室と職員室を何度も行き来していたことをついこの間のように感じています。初めて同士で緊張していた4月でしたが、徐々に馴染んでいき、クラスでの会話が増えていきました。5人という少ない人数ではありますが、一人ひとりがそれぞれを補い合い、助け合いながら過ごした1年だったと思います。特に9月に行われた『現場実習』を境に1年1組の和が深まった気がします。

そして、私自身、様々な行事や経験を通して、成長していく5人の姿に励まされた1年間でした。また、日々の小さな成長でも職員室の学年団で話題になると嬉しくなる自分がいました。4月からは先輩となりますが、自覚と責任をもっと身に付けて、進路につなげて行ってほしいと思います。5人の更なる成長に期待しています。



1年1組担任:津 辻